

東日本大震災から6年
レッスン・ナンバー
特別展示「Lesson # 3.11～学びとる教訓とは何か～」
 2017年3月1日(水)～3月27日(月)開催

日本科学未来館(略称:未来館 館長:毛利 衛)は、2017年3月1日(水)～3月27日(月)に、特別展示「Lesson # 3.11～学びとる教訓とは何か～」を開催します。

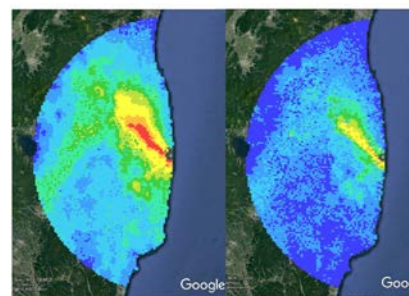
震災から6年、私たちは何を学んだのでしょうか？

2011年3月11日に発生した東日本大震災と、その後の福島第一原子力発電所の事故は、ふだん私たちが意識してこなかった巨大なリスクが顕在化した出来事でした。そこには私たちが学び、未来の生き方を選択するための「教訓」が存在します。

本展では、千年万年に一度の巨大な自然災害のリスクや、原発事故で飛散した放射性物質の現状についての最新情報、そして再生可能エネルギーという選択肢について、パネル展示で紹介。さらに、福島第一原子力発電所から10キロ離れた、帰還困難区域の映像と環境音をライブ配信し、「今この瞬間」を感じることができるインスタレーション展示も行います。

また、3月25日(土)には、福島県の約7割を占める森林に降った放射性物質の現状と今後を、参加者とともに考えるトークイベントを実施します。

展示、ワークショップ、トークイベントを通して、データをもとにした問題のとらえ方や未来社会のあり方を、多角的に考えていく実践的な「Lesson」です。ぜひ貴媒体にてご掲載、ご取材いただきますようお願い申し上げます。



地表1mの空間線量率の変化
 (データ提供: 日本原子力研究開発機構)

■開催概要■

名称 特別展示「Lesson#3.11～学びとる教訓とは何か～」
 開催日時 2017年3月1日(水)～3月27日(月) (火曜日は休館、ただし3月21日(火)は開館)
 開催場所 日本科学未来館 1階 コミュニケーションロビー、5階 コ・スタジオ
 内容 **《展示》**

- パネル展示「Lesson # 3.11～学びとる教訓とは何か～」
 自然災害や原発事故など、震災によって顕在化した「見えないリスク」の存在や、「エネルギー選択」の鍵となる、再生可能エネルギーのポテンシャルや課題について紹介するパネル展示です。
- インスタレーション展示「忘却に抗うためのプラクティス #1」
 帰還困難区域で、かつては人間と共存していた生物が、今この瞬間も生きています。立ち入りが困難な場所に取り残されている生き物たちを、想像、体感できる展示です。
- 科学コミュニケーターによるワークショップ
 パネル展示のトピックスをもとに、「見えないリスク」や「エネルギー選択」について考えるワークショップです。

《関連イベント》

- サイエンティスト・トーク「森に降った放射性物質の行方」
 福島県の面積の約7割を占める森林に降った放射性物質の現状と今後について、森林生態系の研究者からうかがい、参加者とともに考えるトークイベントです。

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150 URL http://www.miraikanjst.go.jp	日本科学未来館 展示企画開発課 広報普及担当 Email: press@miraikanjst.go.jp TEL:03-3570-9192 FAX:03-3570-9150

「Lesson #3.11」とは

科学する力を養い、未来を選択する力を鍛える訓練（Lesson）を、東日本大震災とそれにもなうさまざまな事柄（事象ナンバー3.11）を題材に行う一連の取り組みです。

●パネル展示「Lesson #3.11～学びとる教訓とは何か～」

2011年3月11日に発生した巨大地震による揺れと津波は、さまざまな想定外の出来事を引き起こし、多くの人命を奪いました。未曾有の災害から6年、私たちは何を学んできたのでしょうか。また考え続けなければならないのでしょうか。最新の情報を交えながら、2つの章立てでパネル展示を行います。会場には、来場者が各々の意見を共有できるブースを設置し、ともに考え、伝える工夫も行います。

<第1章 見えないリスクを想像せよ>

・巨大地震と巨大噴火

視野を全世界、あるいは10万年前のスケールまで広げ、自然災害史をひもときながら、将来起こりうる危険と、それにもなう被害の可能性を考えていきます。

・福島原発事故は、今も続いている

事故では何が起こり、どう進展し、これからどのようなリスクが考えるのか？飛散した放射性物質の現状や、被ばくによる住民の健康影響を、調査結果や最新データを交えて示し、考えていきます。

<第2章 エネルギーの選択は未来の選択>

福島第一原子力発電所の事故による混乱は、日本の電力システムの脆弱性をも浮き彫りにしました。私たちは今後、どのようなエネルギーをどのように獲得し、使っていくべきなのでしょうか。震災後、導入の進んでいる「再生可能エネルギー」を取り上げ、そのポテンシャルと課題を考えていきます。



大船渡市に建設された防潮堤（写真提供：岩手県）

●インсталレーション展示「忘却に抗うためのプラクティス #1」

福島県浪江町の帰還困難区域の「今この瞬間」を感じるインсталレーション展示。

かつては人間と共存していた生き物が、人間がいけない場所で今も生きています。ここで、そう遠くない未来に途絶える命もあれば、また新しく生まれてくる命があります。展示会場と浪江町をインターネット回線をつなぎ、ライブ配信で流れる映像と環境音から、立ち入りが困難な場所に取り残されている生き物たちを、想像、体感できる展示です。

制作・監修：小林 博樹（東京大学空間情報科学研究センター小林博樹研究室／講師）

開催日時：2017年3月1日（水）～3月27日（月）

開催場所：日本科学未来館 1階 コミュニケーションロビー

料 金：無料（常設展は入館料が必要です）

●科学コミュニケーターによるワークショップ

パネル展示のトピックスを題材に、「今は見えないリスク」や「エネルギー選択」について、未来館の科学コミュニケーターや参加者と話し合い、考えます。

開催日時：2017年3月1日（水）～3月27日（月） ①13:30～13:50 ②14:30～14:50

開催場所：日本科学未来館 1階 コミュニケーションロビー

料 金：無料（常設展は入館料が必要です）

参加方法：事前予約不要、直接会場におこしください。

関連イベント

●サイエンティストトーク「森に降った放射性物質の行方」

福島第一原子力発電所事故で飛散した放射性物質は、福島県の面積の約7割を占める森林にも降り落ちました。その一部は水を介して植物に取り込まれ、花粉や孢子の中に混ざり、再び飛散していることがわかってきています。森林生態系の中で放射性物質がどのように循環しているのか、専門家をお招きしてお話をうかがいます。最新情報を交えながら、参加者とともに考えるトークイベントです。

開催日時： 2017年3月25日(土) 14:30～15:30

開催場所： 日本科学未来館 5階 コ・スタジオ

講師： 竹中 千里(名古屋大学大学院生命農学研究科/教授)

定員： 40名程度(定員を超えた場合は、立ち見でのご見学も可能です)

料金： 入館料のみ

参加方法： 入退場自由です。直接会場におこしください。

企画、ファシリテーション： 雨宮 崇(日本科学未来館 科学コミュニケーター)



竹中 千里氏



森林での調査の様子